

加賀野地区との意見交換会で寄せられた意見（令和7年12月協議）

No	加賀野地区からの主な意見	常任委員会での協議内容（執行部からの回答）
1	<p>コミュニティセンターやコミュニティスクールの体制を市民がわかりやすく理解できるように周知してほしい。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>白山市では、市民協働によるまちづくりを推進しており、令和6年4月にこれまでの公民館を中心とした体制から、住民が主体となる地域コミュニティ組織とその活動拠点となるコミュニティセンターを軸とした新しいまちづくりの仕組みへと移行しました。この地域コミュニティ組織及びコミュニティセンターの体制の周知につきましては、現在、市ホームページ等を通じて情報提供を行っております。また、まちかど市民講座、市民協働によるまちづくりにおいて、市民や市内の団体が主催する勉強会などの御希望に応じて市職員を講師として派遣し、市の施策や事業について説明することとしております。自治会や各種団体の役員交代時期に合わせた開催により、地域づくりの情報共有、引継ぎの場として活用されております。さらには、より多くの市民の皆様へ情報を届けるため、地域コミュニティ組織の広報紙やSNSなど、多様な情報ツールを活用した分かりやすい情報発信に努め、関係する皆様にも情報発信への協力を求めてまいりたいと考えております。いずれにしても、様々な世代の皆様にごどのような体制で、どのように運営されているかを御理解いただくことが肝要であると考えておりますので、引き続き周知啓発を推進していきます。</p>
2	<p>市ホームページやLINE、広報紙だけではなく、情報発信を強化し動画での周知やInstagramなどのSNSも活用してほしい。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>各事業の周知活動は担当課が担うこととしており、研修の実施や広報紙・ホームページ等の校正のやりとりの中で、職員の情報発信能力を向上させていきたいと考えており、併せてシティプロモーション推進課のフォロー体制を強化してまいりたいと考えております。また、動画での周知</p>

		<p>やインスタグラムなどSNSの活用についてですが、周知する内容により効果的な情報発信を行っていきたいと考えております。</p>
--	--	---

金城大学との意見交換会で寄せられた意見（令和7年12月協議）

No	金城大学からの主な意見	常任委員会での協議内容（執行部からの回答）
1	<p>白山市内は無人駅があり、夜間は防犯の観点から不安である。「防犯カメラあります」といったポスターを張り出すだけでも違うと思うので、掲示を検討してほしい。加賀笠間駅及び美川駅前も暗い。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>加賀笠間駅及び美川駅につきまして、防犯カメラは加賀笠間駅前に6基、同駅東口前に2基、美川駅の日本海広場に2基、同駅白山広場に1基設置しております。また自転車駐車場に防犯カメラ設置中のステッカーを掲示しております。夜間は防犯の観点から不安とのことですので、その不安払拭のため、さらに防犯カメラ作動中というポスターを管理者の了解を得た上で駅舎に掲示したいと考えております。また加賀笠間駅前及び美川駅が暗いということですが、現場を確認しましたところ、一定の照度を満たしていると考えております。ただ、このような声があるということを知り、これを白山警察署と情報共有するとともに、パトロールなどの実施を白山警察署に依頼し、不安感の払拭に努めてまいります。</p>
2	<p>コミュニティバスめぐーるは日曜日が休みのため都合が悪い。電車やバスの本数を増やし、公共交通機関を充実させてほしい。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>公共交通を今以上に充実させてほしいという思いは学生さんも市民の方々も我々行政も同じであります。ただ先日の一般質問でも話題になっているように、全国的にバスの運転手不足が課題となっている中、現状のダイヤを維持していく、守っていくために交通事業者、行政、また市民の方々も共に考えていく重要なポイントとなっているのが現状であります。その中で、コミュニティバスめぐーるの日曜日運行という話題になっております。現状コミュニティバスめぐーる運行の第1優先としましては、平日より需要が見込まれない日曜運行よりも、毎日利用する中・高校生の学生さんや通勤者の移動手段の確保、また高齢者の日常の買物や病院への通院利用など平日運行を優先しておりますので、御理解いただきたいと思います。</p>

3	若者や女性など、多様な意見を行政の取組に反映させるため、SNSでの情報発信やスマートフォンを活用したアンケート等を行い、意見を収集してはどうか。	【総務企画常任委員会】 市長への提案メールの仕組みで広く御意見を受け付けております。また特定の事業、例えば計画の策定などに関する幅広い御意見の収集は担当課で対応しており、近年ではスマートフォンやパソコンからの回答収集も増えております。市長への提案メールでは、担当課にて現状確認や調査、回答案作成を行い、市長の決裁をもってシティプロモーション推進課から本人に回答しております。なお、市ホームページや公式LINEから提案メール問合せフォームにたどり着くことが可能ですので、御活用いただければと思います。
---	--	---

御手洗地区との意見交換会で寄せられた意見（令和7年12月協議）

No	御手洗地区からの主な意見	常任委員会での協議内容（執行部からの回答）
1	<p>ハザードマップの配布だけでなく、住民が内容を理解し、実際の避難行動に結びつけられるような取組が必要。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>昨年度末に全戸配布したハザードマップには、浸水想定区域図だけでなく、避難場所や避難方法等も記載しております。各家庭におかれましては、これらを御活用いただき、避難場所を再確認していただきますとともに、マイタイムラインの作成を推進し、事前に取りべき防災行動を自らが整理できるよう啓発を行っております。引き続きこれらの取組について、市ホームページや広報等を通じて定期的に周知を行い、それぞれが日常生活の中で防災計画を具体化できる機会の醸成を図りたいと考えております。</p>
2	<p>他市や他地区で実施している「深読み防災マップ（住民で読み解く活動）」のような形を参考に、どのような行動がよいのかを考える機会とするのはどうか。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>地域コミュニティ組織や自主防災組織が実施する防災訓練において、ハザードマップ等により、地域の事情に合わせた講習会を開催することによって、住民が自らの生活圏のリスクを自分の目で確かめ、それに沿った具体的な行動により、実際の防災力の底上げにつながると認識しております。市といたしましても、各地域の要望に応じて、講師の派遣等により積極的に携わっていきたいと考えております。</p>
3	<p>「防災意識をどう高めるか」ということについて、また避難訓練に参加したくなる仕掛けなどの情報発信について工夫が必要である。市からも呼びかけや支援をお願いしたい。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>イオンモール白山や白山野々市広域消防本部において開催される防災フェスタや防災学習フェアは、身近に防災を学ぶ貴重な機会であります。市と民間施設、広域消防本部などと連携し、こうしたイベントにおける啓発ブースの充実を図り、市民の皆様の関心を高めるとともに、実際に参加いただくことによって、防災に関する知識や技能の習得を促していきたいと考えております。また、地域コミュニティ組織や地区自主防災組織が実施する防災訓練において、起震車をはじめ</p>

		め消防ポンプ自動車等の展示など、多くの方に防災意識を高めてもらえるような機材の手配についても支援していきたいと考えております。
4	<p>安否確認は基本的に町の中で役割分担をしているが、実際に津波が起こったら担当者が高齢者等の安否を確認することは困難で、家族と避難することが優先となる。訓練でしているような安否確認は現実的でない。安否確認のデジタル化を進めてほしい。</p> <p>【意見交換会での担当班（議員）の回答】 ゆいネットなどは有効な手段であると考えており、以前から執行部に提案している。改めて意見として申し伝える。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>災害時の安否確認については、各携帯電話会社で安否確認アプリがあり、家族間で利用できます。しかし今回は津波を想定した防災訓練の課題ということですので、町内の住民間での確認であれば、結ネットなどの電子回覧版アプリを使うことも1つの方法だと考えます。市としましても、安否確認ができる機能も含めたデジタル化を進める必要があると思いますので、来年度実施予定の電子回覧版導入に向けた市民アンケートの結果も見ながら、導入するツールを考えていきます。一方で、アプリが使える端末を所持していない高齢者や、東日本大震災のような災害時に通信インフラや電源が破壊される場合も想定されますので、アナログで安否確認する訓練も必要だと考えております。</p>
5	<p>実施している避難訓練は、行政から言われたものを基準に行っているが、実際の災害想定と乖離があるのではないかと疑問が残る。御手洗地区のように津波が想定される地区用の対策を示してほしい。津波で避難する際、海岸から遠い住民は津波の可能性が低いにも関わらず避難しようとするため、道路が渋滞となる。海岸沿いではない住民への正しい避難の方法について啓発してほしい。</p> <p>【意見交換会での担当班（議員）の回答】 津波を想定した避難場所や対策、訓練について執行部から対応について示してもらえよう要望する。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>津波被害が想定される相川新町においては津波注意報等が発表された想定での避難訓練を毎年実施しており、多くの住民の方に参加いただいております。これらの取組を通じて、一人一人が自分ごととして防災を捉え、日頃からの備えと訓練が支援に結びつく循環となりますよう、引き続き訓練等の支援を行いたいと考えております。また新年度から運用開始になります白山市役所危機管理センターにより、災害時には迅速かつ的確に情報提供や避難支援等を行い、市民の皆様には、居住地の避難経路を日常的に確認いただきますとともに、公式の発表や避難情報の受信に努めていただきますよう、広報等を通じて協力をお願いするほか、現場の声をお聞きし、実効性の高い啓発と訓練の充実に努めていきます。</p>